

県内総合

建設情報

馬淵川や安比川の事業継続

25年度河川・砂防事業 新規に急傾斜地の大子

セ
ン
タ
ー
二
戸
市

県北広域振興局土木部二戸土木センターは、今年度の河川・砂防に係る事業に関して、一級河川馬淵川の一戸町本町・向町、関屋で、本町・向町が特殊堤の整備など、関屋が河道掘削などを進める。一級河川安比川の二戸市門崎では、河川用ブロック積工を推進する。急傾斜地崩壊対策の二戸市大子は、新規で計画。通常砂防事業の二戸市石切所の沢と一戸町中屋敷の沢(2)は、施工がスタートした。

〈基幹河川改修事業〉
一級河川馬淵川筋本町・向町、関屋(一戸町)は、本町・向町で1.3㌔、関屋で0.5㌔の河川改修を図っている。堤防整備、護岸、掘削、橋梁の架け替えを実施するもので、22年度から事業を進めている。

本町・向町地区は中田橋下流右岸側と万代橋下流左岸側、万代橋上流左岸側と上流右岸側で河川改修を計画。関屋地区では、岩根橋の下流左岸側と上流左岸の一部での河川改修とともに、岩根橋の架け替えを予定している。

本町・向町地区は、24年度から施工に入り、用地取得を伴わない河道掘削から作業を開始。その1工事として発注され、中田橋下流右岸で施工を進めた。最下流が施工位置となる。

25年度は、その1の上流となるその2工事を進める計画で、175㌔の延長で特殊堤一式、連接ブロック張り172平方㌔などを推進する。

万代橋上流左岸では、その3工事を計画。79.3㌔の延長で、特殊堤一式、河川用ブロック積工369平方㌔などを実施する。修正設計や用地補償なども見込む。

関屋地区では、これまで橋の設計などを進めてきたが、今後施工を本格化させていく。その1工事が発注済みで、364.4㌔で河道掘削を約6000立方㌔予定している。今年度は、橋梁の修正設計、用地測量・物件調査も予定している。

◇ ◇
一級河川安比川筋門崎(二戸市)は、全体計画が3000㌔での築堤や護岸、掘削となる。事業期間は、20年度から29年度まで。今年度は、川幅を広げる施工を

継続する。その7工事、その8工事が発注済みで、その7は施工延長132㌔での河川用ブロック積工532平方㌔を、その6工事の下流となる再上流で実施。その8は、その7の下流で施工延長130㌔での河川用ブロック積工640平方㌔を推進する。

〈県単河川事業〉
一級河川平糠川筋朴館(一戸町)、二級河川瀬月内川筋伊保内(九戸村)、二級河川雪谷川筋小軽米と上館(軽米町)で河道掘削を予定している。規模は、朴館が400立方㌔、伊保内が800立方㌔、小軽米が1000立方㌔、上館が800立方㌔の計3000立方㌔程度を見込む。

◇ ◇
二級河川瀬月内川筋大向(九戸村)は、スポット的な形で河道掘削や川幅の拡幅を図る。600㌔の施工延長を予定する。

前年度に住民説明会を実施。今年度は用地補償を進める予定だ。

〈通常砂防事業〉
石切所の沢(二戸市)は、砂防堰堤1基、溪流保全工一式が事業内容。整備する堰堤は、堤長40.8㌔、高さ12.2㌔、堤体積1514立方㌔で、重力式コンクリートの透過型となっている。20年度に事業着手し、27年度の完了を現段階で予定している。

これまで、現地測量・詳細設計、用地測量・物件調査、用地・補償契約を進め、今回、工事用道路に入る運びとなった。477㌔の施工延長となっている。25年度は、用地・補償契約も予定する。堰堤本体に関しては、予算の状況も見ながら施工時期を判断していく。

◇ ◇
中屋敷の沢(2)(一戸町)は、全体計画が22年度から27年度までの期間で、砂防堰堤1基、溪流保全工一式を実施するもの。堰堤は、堤長28.5㌔、高さ6.8㌔、堤体積524立方㌔、重力式コンクリートの透過型となっている。

事業着手以降、現地測量・詳細設計や用地測量・物件調査、用地・補償契約を進め、今回、堰堤の本体工に着手。堰堤本体は、25、26年度の2カ年で整備する構えだ。その後、溪流保全工を進める

ニュースのお知らせ

〒020-0015 盛岡市本町通3-9-33

本社編集部へ

TEL (019) 623-8201

FAX (019) 623-8204

流れを想定している。

〈急傾斜地崩壊対策事業〉
大子(二戸市)は、今年度から着手を予定する新規箇所。事業では、急傾斜地崩壊対策施設の整備により保全対象の保全を図る。切土を実施して緑化する形の対策工を講じる。予備設計の段階で想定する全体計画は、植生工(客土吹付工)2820平方㌔、吹付法土工103平方㌔。25年度から28年度までの事業期間を計画している。

25年度は、詳細設計を進める。予備設計の精査も含んだものとなり、詳細設計の中で詳しい事業計画を固めていく。

詳細設計を進めた後、住民説明会を開き、地元の同意を得たい考え。同意を得られたなら、用地測量にも25年度から入っていきたいとしている。

〈土砂災害防止法基礎調査〉
同センター管内では、2巡目の調査が907カ所のうち559カ所で調査済み。調査中は289カ所で、進捗率が93.5%となっている。

新たな調査箇所は、管内765カ所のうち248カ所が実施済みで、180カ所が調査中。55.9%の進捗率に上る。23年度から進めている調査は、いずれも27年度までに完了することで見込む。

前年度末に発注の開設・法面工進む

＝関農林振興センター・林道赤沢線＝

県南広域振興局農政部一関農林振興センターは、一関市大東町の森林管理道赤沢線について開設事業を進めている。今年度も引き続き施工を進めており、前年度末に発注した開設工事と法面工事が進んでいる。

前年度末には、起点側となる1工区で開設工事を発注。当初段階の数量として、林道土工一式、法面工264.4㌔、擁壁工76㌔、排水構造物工18㌔、防護柵工21㌔、標識工2基、仮設工一式、付帯工一式が進む。工期は335日間。

終点側となる2工区では、法面工事が進んでいる。発注当初段階として、203日間の工期で、林道土工一式、法面工5282.4平方㌔、排水構造物工22㌔、防護柵工211㌔、道路付属施設工1基、付帯工一式の数量となっている。

赤沢線の全体計画は、延長6300㌔、幅員3.0(4.0)㌔の開設となる。このうち、一関市道根岸安原線を起点とする1539㌔区間につい

ては既設の林道があることから、その続きから同市道天狗岩線までの4761㌔区間の開設が、実際の施工区間となる。

18年度から事業に入っており、現段階で事業期間が2027年度までを予定。総事業費に約7億円を想定している。

路線の利用区域の森林面積は、人工林が54%と、県平均の42.7%を上回っている状況にある。ただ、林内路網の整備が遅れ、間伐など森林整備の推進に支障を来している。林内路網の幹線となる林道を整備することにより、木材生産の低コスト化や森林整備の効率化を図ることで、間伐材等の木材生産量の増加、水源涵養、県土の保全など森林の多面的機能の持続的な発揮を図る。

路線の開設は、起点側から手を掛け、現在は起終点の両側から進捗を図っている。これまでに3600㌔程度の施工が完了した。

25年度は2路線で道路改良を実施＝一戸町＝

一戸町は、今年度の道路改良に関して、町道摺糠平糠線の二期、町道中田線の2路線で計画している。今年度の当初予算には、道路新設改良費として1億3013万8000円を盛り込んでおり、着実な進展を図る。摺糠平糠線は、今年度で二期事業分の計画区間全線に手がかかる格好。中田線は、25年度から着工する。

摺糠平糠線の二期改良は、全体計画が1.6㌔で、幅員4.0㌔の計画。現道を拡幅する形での改良を計画する。

今年度は240㌔の改良を計画し、3件ほどの工事発注を見込む。今年度の工事発注で、1.6㌔区間の全線に手がかかる予定。予算が確保でき順調に進めば、26年度での事業完了を見込んでおり、最終年度は改良や舗装工事を進める想定でいる。

中田線は、300㌔区間の改良を全体計画とする。現道は3.8㌔の幅員で、改良により5.0㌔に拡幅したいとしている。

中田線では、今年度から改良工事に入る。25年度に計画する改良は、20㌔程度の延長を見通している。

いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える



いざという時、その水路は使えるか

岩手大学理工学部システム創成工学科助教

松林 由里子

洪水の時期になった。大雨の予報が出るたびに、大きな河川だけではなく、普段は穏やかな身近な流れでも、氾濫するのではないかと、心配になる。住宅街を流れる用水路や河川も、雨の降り方や、漂流物の堆積によってせき止められてあふれることがある。

生活用水に上水道を使うことが多い生活では、身近な流れの必要性を感じることが少ない。何十年も前は田んぼだったが、今は住宅地、そんな場所では、生活上の重要度が下がった流れが、住宅のそばを流れていることもある。

排水路として役に立っているとはいえ、それなら地下に埋まった下水道ではないのか、大雨が降ったときにあふれるのではないのか、草木やゴミが流れてきて詰まるのではないのか、そろそろ泥上げが必要ではないのか、よどんだ水から蚊が発生するのではないのか、たまにいやなおいにおいがする、じめじめする、落ちたら危ない。その水路や河川の事情もよくわからないまま、余計なお世話で、勝手に共感し同情する。

日常的に発生の危険性がある火災、消火活動には、水が使われることが多い。消防署や消防団では、水槽車に積んだ水の放水や、ポンプ車を使って、消火栓や防火水槽などの人工水利や、河川やため池などの自然水利の水で放水を行う。山林火災の現場では、ヘリコプターによる散水や、背負い式の消火水のうを用いる様子が報道される。

水を使った消火は、「冷却」による消火方法で、そのほかに、「除去」と「窒息」による消火が行われる。燃えるものを取り除く方法と、酸素を断つ方法である。

阪神淡路大震災、東日本大震災、能登半島地震、人工水利が使えなかったことが、消火活動の妨げとなった。通常の火災で使われる、消火栓や防火水槽などの人工水利が、水道管の破壊によって給水できない、倒壊した建物に覆われて使えない、ということが起きた。

どの地域であっても、大規模震災時に、消火活動

に使う人工水利が使えないことは考えられる。通常は人工水利による消火活動が主に行われる地域で、それらが使えないことを想定し、水路や河川の水を消火活動に使うための地域ごとの取り組みや提案が行われている。

もちろん、通常の消火活動で、自然水利を使用することが多い地域もある。

たまに、小さな河川の横で、自然水利、などの看板を見ることがある。身近な農業用水路では、鹿妻穴堰のように、消火用水として使いやすい工夫がなされたものもある。ただし、冬季は流量が減る場所が多いので、使用に適した時期は限られるようだ。

河川やため池が消火活動に使えるようになるには、ちゃんと条件がある。目安は水深が50cm以上、流量が十分にあること、ポンプ車が近づけること、道路からの高さが4.5m未満などである。ただし、水深が足りない場合は、水底を掘る、水をせき止める、などの方法がある。



鹿妻穴堰の消火用水

身近な流れでも、消火活動に使えるのではないのか、と思って測ってみたが、水深も流量もまったく足りなかった。これに対して、土嚢でせき止めて、バケツリレーをすれば使えるのでは、と助言をいただいた。今のままではだめだけど、いざとなったら、役に立つかもしれない。

※いわて防災学教室のバックナンバーは、岩手大学地域防災研究センターのホームページ「公開情報」で閲覧できます。

2025年版 岩手建設年鑑

予約受付中!! 25・26年度 格付を掲載 (今年は格付変更年です)

予約
特価 19,800円 (税込)

10月中旬発行 発行日までは予約価格となります

定価 22,000円 (税込)
一冊にすべて入っています

業者名簿編

コンサルタント編

団体名簿編

資料編

検索(地域別・業種別・格付別)
二次加工(プリントアウト)ができるデータ付

お申し込みは (株)日刊岩手建設工業新聞社

☎(019)623-8201

www.nikkaniwate.co.jpから

さく井・温泉掘削 井水・温泉設備 地中熱 地盤調査

株式会社 長内水源工業

調査・開発工事からメンテナンスまで

本 社 滝沢市鵜飼笹森10-13

TEL (019) 684-2661(代) FAX (019) 684-2664

http://www.osanais.co.jp

- 植 栽
- 庭園樹
- 造園設計・施工
- 土木工事一式

お気軽にご相談下さい

盛岡市指定下水道工事店

株式会社 上の島

本 社 盛岡市下太田下川原136-1 電話 658-1100(代)

解体工事から一般・産業廃棄物処理まで

お気軽にお問い合せ下さい

奥州エコリサイクルセンター TEL・FAX:0197-32-2111 [岩手県奥州市江刺 田原字横懸248-9]

特定建設業 EC南部コーポレーション(株)

本社/〒023-0003 奥州市水沢佐倉河字慶徳71
TEL0197-22-2255・FAX0197-24-2555
http://www.ecnanbu.jp E-mail info@ecnanbu.jp